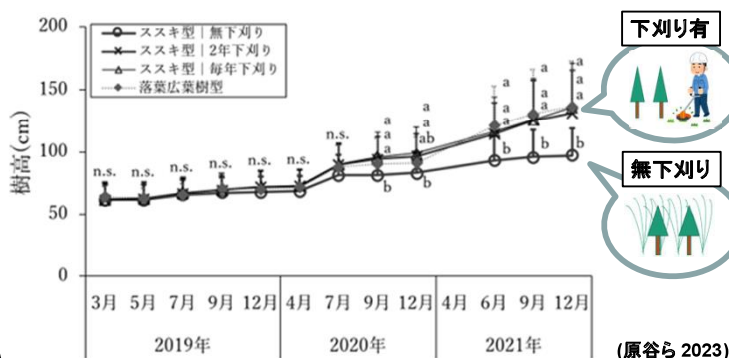


林業を行う中で、下刈り(植えたばかりの時期に植えた木の周りに生えてくる草木を除去する作業)は最も労力とコストがかかる作業であり、下刈りの省力化やコスト削減は重要な課題です。本講演では、下刈りの省力化およびコストの削減を目的とした下刈り回数の削減方法を模索する中で得られた成果をご紹介します。

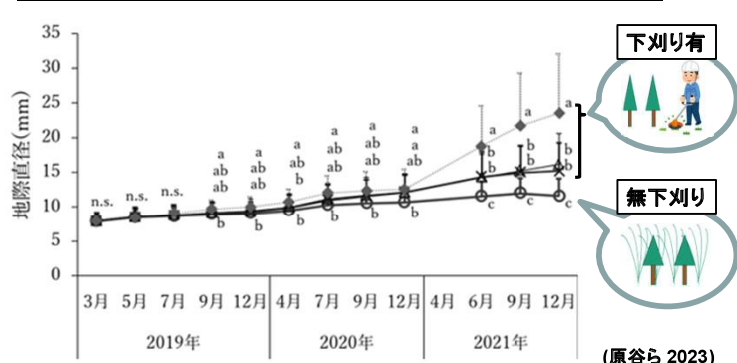
✓ 下刈りを行わなかった場合の植えた木の成長

- ・下刈りを行った場合と比べて、下刈りを行わなかった場合の植えた木の高さや幹の太さは小さくなりました。

○下刈り実施時と無下刈り時の植えた直後からの高さの変化



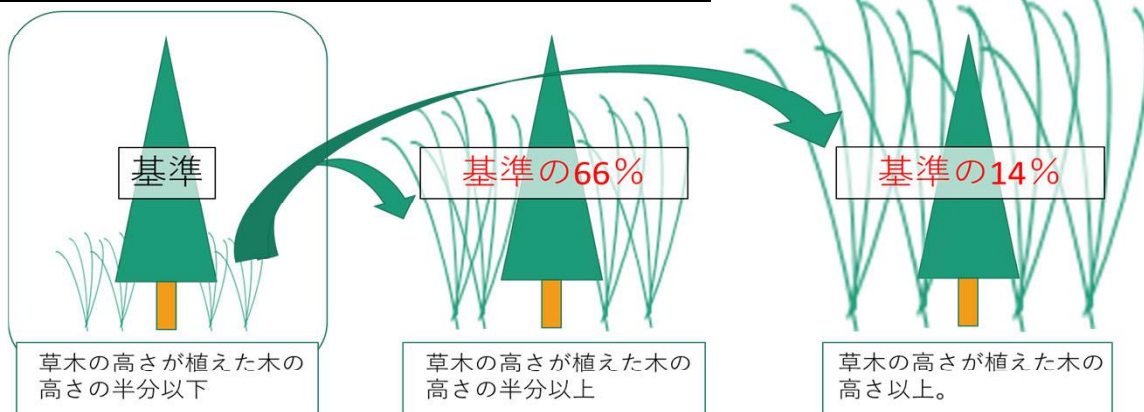
○下刈り実施時と無下刈り時の植えた後の木の幹の太さの変化



✓ 草木の覆い方が植えた木の幹の成長に与える影響

- ・草木の覆い方を3段階に分けて、最も覆われていない段階を基準に植えた木の幹の成長量の低下率を計算した結果、植えた木が草木に覆われるほど成長量が低下することが分かりました。

○最も草木に覆われていない状態を基準とした各覆い方の程度が示す幹の成長量



✓ 下刈り回数を減らした場合の優良品種の高さの成長

- ・下刈り回数を減らした場合でも、成長の良いといわれる品種(優良品種)の高さは1品種を除いて、これまで利用されてきた品種(在来品種)より高くなった。

○下刈り削減時と通常下刈り時の各品種の植えた直後からの高さの変化

